



POST CARD

第一四半期の情報は、中面をご覧ください。



TOP MESSAGE

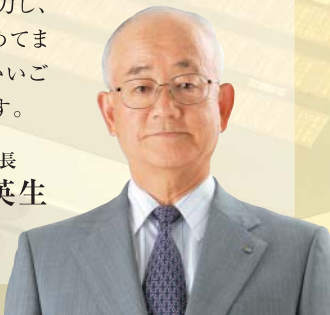
ご挨拶

株主の皆様にはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。2008年度第1四半期を終了しましたので、事業の概況をご報告いたします。

当第1四半期は、システムLSIなどの半導体デバイス需要の減少の影響をうけ、ロジックIC向けの売上は低調に推移しましたが、メモリーIC向けの売上につきましては、フラッシュメモリー向けを中心に300ミリウエハ対応のアドバンスプローブカード(Vタイプ)の積極的な拡販により堅調に推移しました。

しかしながら、利益面につきましては、次世代型プローブカード「Mタイプ」の開発負担の継続に加え、ロジックIC向けの売上減少に伴う利益低下や、メモリーIC向けの価格競争激化などにより厳しい結果となり、第2四半期以降も同様の事業環境の継続が見込まれるため、業績予想を修正いたしました。厳しい事業環境は続きますが、Mタイププローブカードに対する開発投資は引き続き継続し、ロジックIC向けの需要掘り起こしによる売上拡大とメモリーIC向け既存製品の原価低減、加えて経費の節減に注力し、売上の確保と利益向上に努めてまいります。今後とも皆様の暖かいご支援よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長
坂根英生

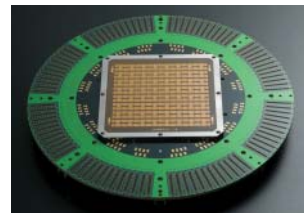


TOPICS

Mタイプ事業化の近況

Mタイププローブカード「MCシリーズ」

当社ではMEMS技術を用いた次世代プローブカード「Mタイプ」の事業化に取り組んでいます。特に現在開発中の「MCシリーズ」につきましては、市場規模の大きいメモリーIC向けの製品であり、今後の当社の成長を担う上でも非常に重要な製品です。現在、MCシリーズは主要顧客へのサンプル出荷を終え、顧客での本格的な評価を開始しています。今後も製品化に向けた課題をひとつひとつ着実にクリアし、一日も早い市場投入を目指します。



定時株主総会開催のご報告

2008年6月24日(火)、尼崎市のホテルニューアルカイクにて第49回定時株主総会を開催しました。当日は、ご出席の株主様から当社事業や業績についての数多くのご質問を承り、3つの議案が承認可決され、約1時間20分で閉会しました。



また、会場には普段目にする機会のない「プローブカード」も展示。当社製品を身近に感じていただく機会となりました。今後も株主総会を通じて、皆様とのコミュニケーション作りに積極的に取り組んでまいります。

2008年度 第1四半期のご報告
2008年4月1日から2008年6月30日まで

BUSINESS REPORT
JEM TODAY

JEM 日本電子材料株式会社 証券コード:6855

〒660-0805 兵庫県尼崎市西長洲町二丁目5番13号
<http://www.jem-net.co.jp>

株主優待について

当社の株主優待は年1回、9月末の株主の皆様を対象としております。優待内容は当社主力工場のある熊本県七城町名産「七城のこめ」の新米で、保有株式数に応じてお届けしています。
(100株以上500株未満…2kg、500株以上1,000株未満…5kg、1,000株以上…10kg)なお、お届けは12月ごろを予定しています。

JEM TODAYは年4回発行 最新情報をお届けします

JEM TODAYは毎年4回、四半期ごとに発行しています。
通期報告・第1四半期報告は3月末現在の株主様へ、第2四半期報告・第3四半期報告は9月末現在の株主様へお送りしています。

株式関係のお手続きはお電話、HPにて。

株式関係のお手続き(住所変更・名義書換等)の用紙は、三菱UFJ信託銀行(株)の電話またはホームページで24時間ご請求いただけます。

電話：☎0120-244-479(本店証券代行部)

☎0120-684-479(大阪証券代行部)

ホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、証券保管振替制度をご利用の方は、お取引口座のある証券会社等にお問い合わせください。



環境に配慮して大豆インキで印刷しています
このインキは、再生紙を使用しています

2008年度 第1四半期のご報告

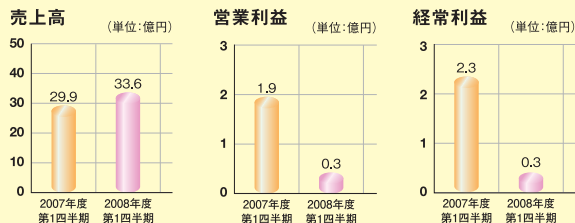
事業環境

当社グループの主たる事業分野である半導体市場は全般的に厳しい状況で推移しました。
ロジックIC市場では最終製品の販売不振によりシステムLSIなどの半導体デバイス需要の減少が続く、メモリーIC市場でも最終製品の価格下落に伴う半導体デバイスの低価格化や生産調整が継続するなど、半導体市場全般に設備投資の抑制や生産調整が続きました。

売上高・収益動向

当社グループの売上につきましては、ロジックIC向けは低調に推移しましたが、メモリーIC向けは数量需要が比較的堅調であったフラッシュメモリー向けを中心に、300ミリウエハ対応のアドバンスプローブカード(Vタイプ)の拡販に注力した結果、堅調に推移しました。
しかしながら、利益面につきましては、Mタイププローブカードの開発投資の継続に加え、ロジックIC向けの売上減少に伴う利益低下やメモリーIC向けの価格競争激化などにより、厳しい結果となりました。
以上の結果、当第1四半期の売上高は33億6千8百万円、営業利益3千6百万円、経常利益は3千9百万円、四半期純利益は6千5百万円となりました。

業績の概況(連結)



業績予想

業績予想(連結)

最近の業績動向を踏まえ、2008年5月15日に公表した業績予想を修正いたしました。

第2四半期累計期間(2008年4月1日～2008年9月30日)

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想	7,700	460	480	280
今回修正予想	6,630	10	30	50

通期(2008年4月1日～2009年3月31日)

単位:百万円

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想	16,200	1,150	1,220	720
今回修正予想	13,900	270	290	120

業績予想の修正理由

半導体市場は先行き不透明な状況が続いており、当初予測に比べて市場悪化が長引く見通しです。プローブカード市場につきましてもロジックIC向けの需要は低調な推移が見込まれることに加え、メモリーIC向けの需要減退と価格競争の継続が見込まれるため、第2四半期累計期間及び通期の業績予想を修正いたします。
厳しい市場環境の継続が見込まれますが、次世代型プローブカード「Mタイプ」に対する開発投資を継続し、ロジックIC向けの需要掘り起こしとメモリーIC向け既存製品の原価低減、更には経費の節減に注力し、売上の確保と利益向上に努めてまいります。

なお、配当につきましては年間1株当たり20円(第2四半期末10円、期末10円)の予定に変更ありません。